

## 図画工作

図画工作科の目標の一つ一つの文言の意味はどうなっているのか。

図画工作科の目標の一つ一つの文言の意味は、以下のとおりである。

「表現及び鑑賞の活動を通して」について

「表現及び鑑賞の活動」は、図画工作科の学習活動のことを示している。

図画工作科の学習は、児童が感じたことや想像したことなどを造形的に表す表現と、作品からそのよさや美しさなどを感じ取り見方を深める鑑賞の二つの活動によって行われる。表現と鑑賞はそれぞれに独立して働くものではなく、お互いに働きかけたり、働きかけられながら、一体的に補い合って高まっていく活動である。「表現及び鑑賞の活動を通して」とは、児童一人一人が、表現や鑑賞の活動を行うことによって教科の目標を実現するという図画工作科の性格を表している。

「感性を働かせながら」について

※ 省略（「図画工作科の目標はどう変わったか。」の項目を参照）

「つくりだす喜びを味わうようにするとともに」について

「つくりだす喜びを味わう」とは、感性を働かせながら作品などをつくりたり見たりすることそのものが喜びであり楽しいことを示している。

それは、児童の欲求を満たすとともに、自分の存在を感じつつ、新しいものや未知の世界に向かう楽しさにつながる。また、友人や身近な社会とのかかわりによって、一層満足できるものになる。このようにして得られた喜びや楽しさは、形や色などに対する好奇心、材料や用具に対する関心やつくりだす活動に向かう意欲などの造形への関心や意欲、態度を支えるものとなる。そして、一人一人の「造形的な創造活動の基礎的な能力」をより働かせることになる。

「造形的な創造活動の基礎的な能力を培い」について

ここでは、表現及び鑑賞の活動を通して、育成すべき能力を示している。

「造形的な創造活動」とは、自分の思いを形や色などで表したり、よさや美しさを感じ取ったりするなどの活動のことである。「基礎的な能力」は、これを実現するために必要な能力のことである。具体的には、発想や構想、創造的な技能、鑑賞などの能力になる。発想や構想の能力は、形や色、イメージなどを基に想像をふくらませたり、表したいことを考えたり、計画を立てたりするなどの能力である。創造的な技能は、材料や用具を用いたり、表現方法をつくりだしたりするなど、自分の思いを具体的に表現する能力である。鑑賞の能力は、作品をつくりだしたり見たりするときに働いているよさや美しさなどを感じ取る能力である。

「豊かな情操を養う」について

ここでは、図画工作科の目指す姿を示している。

情操とは、美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心をいい、情緒などに比べて更に複雑な感情を指すものとされている。

図画工作科によって養われる「情操」は、よさや美しさなどのよりよい価値に向かう傾向をもつ意思や心情と深くかかわっている。それは、一時的なものではなく、持続的に働くものであり、教育によって高めることで、豊かな人間性をはぐくむことになる。

図画工作科の学習は、自らの感性を働かせながら、造形的な創造活動の基礎的な能力を発揮して表現や鑑賞の活動を行い、つくりだす喜びを味わうものである。このような過程は、その本来の性質に従い、おのずとよさや美しさを目指すことになる。それは、生活や社会に主体的にかかわる態度を育てるとともに、伝統を継承し、文化や芸術を創造しようとする豊かな心を育てることにつながる。

このように、図画工作科の学習を通して、よりよく生きようとする児童の情意の調和的な発達をねらいとして「豊かな情操を養う」と示している。